



抑止力への貢献

「隊員留守家族への支援対策」  
促進について！

横須賀水交會会長 土井克彦



本会では、一昨年来からの懸案でありました「隊員留守家族への支援策」について本会と総監部間での調整を終え、既報の通りの支援策(案)を作成、9月13日(土)に実施しました本会「幹事会」に於いて当該案を審議、妥当であるとの結果を得ましたので会員各位に対し「支援策(ファミリーサポートセンターの開設について)」として郵送、併せて本会HP上にも掲載したところでありま

しかしながら肝腎のファミリーサポートセンターへの入会手続きが不明確で、会員の皆様から“趣旨は分かったがどうすれば良いのか？”或いはその名称のイメージからか活動報酬の項のみが目立ち“支援と言いつながら報酬を受け取るのか？”等のご批判を頂いております。そこで本紙面をお借りして、今一度当該支援策の目指す方向性とその意義を述べ、改めて「ファミリーサポートセンターへの入会申込書」を送付させて頂くことと致しました。

隊員留守家族支援策は、3・11事案の教訓と昨今の我が国を取り巻く厳しい安全保障環境に鑑み、その必要性が論じられて来たものであります。が、ともすれば会員やそのご家族に過度の負担を強いるのではとの危惧が先立ち、その成案を得るのに少々手間取った経緯があります。

発行 平成26年11月19日  
編集 横須賀水交會事務局

当然のことながら会員側に於かれても同様の危惧をお持ちになられるものと思われまので、国や地方自治体で進められている児童への援助活動方式であるファミリーサポートセンター制度の転活用(準用)を図ることとしました。

但し、行政レベルで実施されている当該制度が、子育て支援を要する家庭への援助活動を目的としているのに比し、本会の目指す処は「我が国の安全保障に関わる突発的の不測事態発生時、隊員の緊急登庁で家庭に残される児童を一時的に預かる」ものであり、何時如何なる事態にも即応できる体制構築が必須要件となります。このため本件は、現状の民間施設や自治体施設に委ねることに馴染まない側面を有しており、本会のような防衛協力支援団体で対処する以外適当な手段が無いのが実情であります。この観点から、先ずは本支援策が決して隊員の子育て支援等に類するものではないことをご理解頂きたいと思ひます。

横須賀水交會主要行事予定  
平成27年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-saikokukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 幹事会

- (1) 期日 12月6日(土)
- (2) 幹事会

場所 横須賀地方総監部  
会議室(総監部庁舎2F)  
時間 15:00 ~ 16:30  
(3) 懇親会  
場所 よこすか平安閣  
時間 17:30 ~ 19:30  
会費 6千円

2 合同賀詞交歓会

- (1) 期日 27年1月18日(日)
- (2) 場所 横須賀商工会議所
- (3) 会費 4千円(女性2千円)

3 靖国神社月例参拝

期日 27年2月19日(木)

又、敢えてファミリーサポートセンターの報酬制度を取り込んだ目的は、上記本制度の特性に鑑み、預ける側の遠慮や甘えを戒めると共に預かる側の責任感と義務感の覚醒を促

すことを狙いとしたものであり、仮初めにも報酬自体を目的とするかの如き誤解や邪推を招かぬよう今後とも十分意を払い柔軟に対処して参る所存であります。

総監部ではこの種事態に際して、近傍に実家等の預け先の有る隊員に對してはそれを活用する等最大限の自助努力を払うよう指導しており、すが、それでも遠隔地出身隊員や、特に両親とも自衛官である隊員には当該案件が深刻な課題となっており

ます。勿論総監部側でもただ手を拱いている訳では無く、その種児童の受け入れ態勢構築を図りますが即応は困難であり、事態発生からその態勢構築までの数日間の対処策に苦慮しております。今次施策は正にその間隙を埋めようとするものであります。

本支援策を発動する事態は、数十年に一度有るか無いかの発生頻度と予測されますが、その発生確度は間違いない上がって来ており、それに備える早期の態勢創りが希求されま

す。それは隊員の後顧の憂いを取り除き、全力で我が国防衛の任務に当たれる環境を整える一助と成るもの

で、少々大仰とは思いましたが本論の見出しを“抑止力への貢献”と銘記しました。その態勢の根幹は、大切な児童を

一時的とは言え預け・預けられる間柄となる訳です。相互信頼無くしては成り立たず、本支援活動の第一義は“隊員家族と本协会会员家族との交流による信頼醸成”に有るものと

考えます。これまでの本会活動は、どちらかと言えば部隊への精神的支援に留まり隊員個々に寄り添う支援活動を怠

つて来た感拭えませんが。このため隊員と会員相互の存在は近くて遠い関係にあり、家族相互間に至っては何か況やの状況にあります。今回の隊員留守家族支援策の最大の眼目は正に“この状況の打破！”にあります。

なりますので、直接支援に当たる本协会会员家族も必然的にその近辺在住の方々に限定されることが予測されます。

しかしながら今回の趣旨からしますと、本件は横須賀水交會掲げでの支援活動と位置付けられますので、遠隔地にお住まいの会員家族に於かれても積極的にファミリーサポートセンターへ登録頂き、斯かる交流の場或いは当該センターが企画するであろうイベント等を通じて、間接的とは言え有形無形の支援に当たって頂ければと考えます。

本格的活動に入れば、予期せぬ問題も生起するものと考えておりますが、先ずは立ち上げその都度ブラッシュアップを重ねることで強靱な恒久的活動形態を目指したいと思っております。なお、その実績を踏まえて「横須賀曹友会」等にも働き掛け、支援の輪を広げて行く所存であります。更には、本会の活動が相応の成果を上げ得れば、他の水交會支部への波及が予測されますことから、その指針となるようしっかりと取り組んで参ります。既に総監部では支援を希望する隊員の調査及びファミリーサ

ポートセンターの受け皿創り等が進んでいると聞いております。会員各位に於かれては、今次支援策の趣旨をご理解の上、ファミリーサポートセンターへの奮ってのご入会を期待しております。

### 「司令官挨拶」

自衛艦隊司令官

海将 鮎田 英一



本年3月に第47代自衛艦隊司令官を拝命した鮎田です。横須賀水交會の皆様には常日頃から温かな御支援御声援を賜り厚く御礼申し上げます。横須賀は、海上自衛官にとって聖地ともいふべき土地ですが、残念ながら私はこれまで勤務経験がありませんでした。着任以来、横須賀の歴史を学び市民の方々と交流を重ねるにつけ、帝国海軍・海上自衛隊さらに日米同盟の発展に対し、横須賀が

果たしてきた役割の重さを実感し、この上ない良き勤務地を頂いたことを有難く思っております。

平成26年は防衛省創設60周年の節目に当たり、自衛艦隊も当然ながら創設60周年を迎えました。自衛艦隊司令部は、横須賀・船越地区に現庁舎を構築しておりますが、平成32年、東京オリピックの開催年に新司令部施設の運用を開始すべく、着々と諸準備を進めておりますので、この機会に概要を御紹介したいと思います。

自衛艦隊司令部は昭和29年7月1日の自衛艦隊創設とともに、海上司令部として旗艦「けやき」艦上に開設されました。以後、旗艦は「あきづき」に代わり、一方で、昭和36年9月に護衛艦隊・航空集団が新編されるなど自衛艦隊は増勢し、昭和38年3月、自衛艦隊司令部は陸上司令部として横須賀・吉倉地区に移りました。昭和40年3月には、私立栄光学園から取得した横須賀・船越地区の施設跡に移動し、昭和62年3月、現在の庁舎が完成し今日に至っております。

ここ数十年、横須賀地区において海上自衛隊施設の整理統合が進んでおります。その過程において、船越地区

では隣接する関東自動車工業の跡地取得が進展しました。自衛艦隊は、自衛隊の統合運用体制への移行に伴い、統合任務部隊司令部の一つとして各種事態に的確に対応するため、指揮通信機能を強化し、作戦と情報を融合することが必要であると考えており、船越の取得用地に機能強化された自衛艦隊司令部を含む「海上作戦センター」の整備を計画中です。平成26年度は調査費が計上され、来年度以降、敷地造成のための地盤工事等に移行する予定です。

「海上作戦センター」には、相当数の司令部・部隊が集約され、自衛艦隊の業務をより迅速かつ有機的に遂行することが可能となります。大規模地震・津波などの災害を含む抗堪性にも優れ、長期作戦遂行能力が向上し、また隣接した敷地には官舎群も整備され即応体制も強化されます。

船越地区は、もともと海軍工廠の電池・光学実験部や潜水艦基地のあった帝国海軍ゆかりの地と聞いておりますが、今から6年後、戦後75年の節目の年に、帝国海軍並びに海上自衛隊の諸先輩による御苦心の積み重ねの上に、装いも新たに海上自衛隊の作戦中枢基

地として拡充されることになると思われます。

昨今の変転極まりない国際情勢の下自衛艦隊は東シナ海等の周辺海域における警戒監視、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動など日夜不断の任務に怠りなきよう隊員一同努力をしております。こうして隊員が心おきなく任務そして訓練に打ち込むことができますのも、横須賀水交會の皆様をはじめとする地域の方々の御理解御支援の賜物と重ねて感謝いたします。

最後になりましたが、横須賀水交會の益々の御発展と皆様の益々の御多幸を祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

【投稿】

ユタ、アリゾナ、カリフォルニア

会員 佐野 恭子



8月後半ロサンゼルスから入国し

てラスベガス、カナブ、ヨセミテ、そして太平洋岸を南下して4週間、夫の車で6000キロ走った。ヨセミテ国立公園と海辺の町以外、総てが岩砂漠か、植物が僅か張り付く丘陵で日中は37・8度の酷暑だった。4年越しの早魃は想像を超えて厳しく、ユタとアリゾナの間にある全米第2の人工湖パウエルの貯水量は53%、ロッキーマウンテンの雪解け水が流れ込む4〜7月が最も水量が多いと聞いて釣橋から見下ろす流出先のコロラド川面は遙かな下方に緑色の帯となっていた。いかな厳しい早魃も米国の国力を持つてすれば、と私は思っていた。けれども州の独立性が高く、複数の州にまたがる河川の利用も、降雨実験をするにもあまりに広大な砂漠だった。ヨットの浮かぶパウエル湖を一望して冷房がキンキンに効いた室内に卵1個生産するのには水が200リットル要ると表示されていた。アリゾナ州カナブと言う田舎町に泊まった。林の中にロτζジが繋がりが夕暮れに赤々と山が見える。130キロ圏内にパウエル、グランドキャニオン、アンテロウペが入る。アンテロウペは赤い砂漠にあ

る巨大な岩に幅2mほど、高さ5〜6mの何年に1度かの洪水によって狭い隙間を水がほとばしって作られた空間で、立ち入る事ができる。見上げれば小さな青空、光は様々な赤を反射させながら落ちてくる。縞模様があやうなる柔らかな岩はすべて曲面だ。見学には17ドルの料金と8ドルをインディアン団体に納めて後3時間、身の置き所無い暑さを薄い屋根の待合所で凌ぎ、巨大な四駆のピックアップトラックで砂漠を突っ切つて10分、ようやく着く。砂は深く、猛スピードで飛ばすので人は荷台にしがみ付いて炒り豆になる。西部劇の砂煙を浴びる。夕暮れ、砂漠の色が変わって行く。高所恐怖症人向きでないのがグランドキャニオン、ブライスカニオン。かなた地平線までの岩砂漠を前に断崖絶壁に張り出した板1枚の上で鉄棒に掴まり風に吹かれた。どれ程の時が作ったか大きな穴の開いた、めがね橋のような岩を渡る。大穴を通して山も美しい谷底も見える。アスペンの葉が常に細かく震えてきらきらと陽ざしを撥ね返す。ブライスカニオンは侵食が進んだ「千尋の谷を見下ろせば赤い

羅漢(仏像)がひしめきおわす」と言う奇観だ。空にうく雲を、横から見る経験をした。次にヨセミテ近郊のマンモスレイクに泊まった。標高2700mほど、貴重な雪解けを集める貯水池の干上がった所に車を停めて半袖姿の青年がいた。「ここは標高があるから8月末には大きな雪片が舞う。ロスへ水を買った金は市に入るんだよ」湖に半分ほどの水があり、しかし所詮は砂漠の中、紺碧の水面は茶色の崖に定規で引いた直線となり緑は全くない。隣のモノ湖は既に塩湖と言う。半信半疑で湖水をなめた。湧き出る水は真水、少し色のある湖水は、にがりの強い塩水だ。ここで乗馬が出来た。馬で森を抜け、丘を登った。ヨセミテを去る時、僅かな雨にフロントガラスが濡れた。まさかと振り返ると、砂漠に雄大な虹が掛かっていた。この後、太平洋に面した小さな町に泊まった。砂浜に磯も有り、小魚がいるのか沢山の海鳥が群れ、夕暮れ前には金色の海面をけなげに羽ばたいて20羽程が一本になって渡って行く。かもめより小さい、戦闘機の形をした黒い鳥が頭上2mほどのところを15、6

羽、風に乗って目にも留まらぬ速さで飛び去った。海岸沿いを行くと人々が集まって鯨がいた。7、8頭か小さい鯨らしく交互に水柱を上げ、頭を寄せて相談などしているようだ。海がこれほど豊かに生命を抱え育んでいるとは思わなかった。帰国して9月29日東京駅から横須賀線に乗ると2人の素敵な青年が海上自衛隊の夏の制服を着ていた。念願の海曹に昇進して初任海曹課程を受けに行く20代を終えようとする人達で「ようやく海曹になれば、身分が安定してほっとしました。海士の時は制服で電車に乗るのは嫌でしたね・・セーラー服でしたから。これから短艇ですよ・(と、掌を見せた)尻の皮が剥けます。毎晩薄皮が出来るように軟膏を塗ります。翌日また剥けますが。正直、憂鬱なのは人間関係です・教官から一言言われたくないのは、昔はこうだった、と言う言葉です。自分ではやらないで・この1、2年モンスターペアレント等のため緩くなっています、それはいい事じゃないです。指示が無いとボーっと見ている者がです。僕は教育隊を卒業する時、二度とここ

に来たく無い!と思いました。4月入校なので暑い盛りに匍匐前進です・・・けれど、これが後から必要となり・・・」まだ言い終えないうち「たうら」を通過するや、いきなり2人の目が輝き、海と灰色の艦艇を誇らしげに捉えた。次いで、諸兄諸姉が大切にされている「武士道」について言及するのは僭越ですが、国際文化会館主宰の新渡戸塾で東京大学史料編纂所教授山本博文氏の「武士道」の講演を聞き、彼のエッセイストクラブ賞を取った著作はとも面白かったので申し上げます。「武士道」「切腹」(日本人の責任の取り方)「江戸の雑記帖」「忠臣蔵の決算書」「信長の血統」など学術書ではなく、史料を挙げてそれを口語訳したり、何方にも興味深い本と思われまます。最後に申し上げるのは三笠保存会前理事長、佐藤雅元横須賀地方総監・海将が「歴史読本」9月号に「ただしお」に関する投稿をされた。文面に深い配慮をされ、なお長い長い間、沈黙のまま忍耐してこられた方々の思いを述べられた。これらでもアマゾンで入手は可能と思う。

どれほどの思いか、私の手の届くものでは無いが、謹んで拝読できた事が私には有難かった。この投稿を拝読するまで、「なだしお」は、言葉には出せなかった。

【投稿】

咸臨丸フェスティバル式典への参列

常務幹事 泉 徹



第41回目を迎えた咸臨丸フェスティバル式典は、快晴に恵まれた4月26日(土) 11時から約1時間、気温の高い住友重機械工業(株)浦賀工場内において海上自衛隊横須賀音楽隊の奏でる音楽を背景に明るい雰囲気の中、執り行われた。

当日は、オランダ王国大使館のファン・デン・ベルグ全権公使をはじめ、米国大使館ダーナウエル全権公使、曾根健孝外務省北米第一課長の他、吉田雄人横須賀市長、板橋衛横須賀市議会議長、小泉進次郎衆議院

議員、牧島功神奈川県議会議員、木下憲司横須賀市議会議員、海上自衛隊からは武居智久横須賀地方総監、井上司潜水艦隊司令部幕僚長、下園輝昭第二術科学校長、在日米海軍司令部からはマイケル・コールマン副司令官兼参謀長、並びに地元浦賀の各町長等、計約200名が式典に参加した。

式典は、「開式」、「蘭、米、日の国歌吹奏」に続き、オランダ、アメリカ各大使代理及び横須賀市長による「花輪供呈」、横須賀市長の「式辞」、オランダ、米国各大使代理及び外務大臣代理の「祝辞」の後、「閉式」となった。特に、ファン・デン・ベルグ公使が「咸臨丸の歴史がオランダと日本の特別な関係を際立たせている。」と述べた点と、ダーナウエル米国公使が「1860年代に咸臨丸が初めて太平洋を横断しサンフランシスコにおいて歓迎を受けた歴史は両国の友情とパートナーシップの扉を開いたそのものである。」と述べられた点が印象深かった。又、終始、海自横須賀音楽隊が国歌の吹奏を始め式典の中で重要な部分を占め式典をより厳かなものにしていった。

その式典の他、工場跡地のあちらこちらで出店が出店され、婦人会の皆さんによる踊り等も即席の舞台で展示される等にぎやかな風景があちこちで見られた。又、横須賀の海上保安庁の他、警察、消防がブースを展示し子供たちにも愛嬌を振りまいていた。自衛隊のブースはないものかと見て回ったが最終的に見つかることは出来なかった。



このように横須賀市内の身近なところで比較的大きな行事が実施されていることを横須賀市民はもとより、県内各地でも余り知られていないようであり、より多くの人に知ってもらう意味で、県内、県外を問わず強力な広報活動が行われても良いように思えた。

「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事 木下 憲司



昨年末に特定秘密保護法が成立して以来、国家安全保障局の設置、集団的自衛権の行使容認閣議決定と、防衛態勢の再構築が急ピッチで進んでいます。しかし、これらに反対する人達がいるのも事実で、6月に横須賀市議会へ特定秘密保護法廃止及び集団的自衛権行使反対に関する請願が提出されました。いずれも国への意見書提出を求めるもので、27市民団体約4千筆の署名が添えられています。本会議において審議の結果、両請願ともに賛成少数で不採択となりました。審議の際には、集団的自衛権行使反対の請願に関しては、「請願趣旨に「戦争する国づくり」へ向かうとの主張があるが、集団的自衛

権の行使は、抑止力が高まることにより、紛争が回避される」ことを強調して反対討論を行いました。反対派の人は二つの種類に大別できると考えます。一つは、思想信条として、安全保障を度外視して反軍思想を持つ人達、他の一つは、よく解らないから反対する人達です。前者は確信的なところがありますが、後者は説明・説得は可能だと思います。横須賀はわが国の安全保障の最前線にいます。両請願を否決できたことは横須賀市議会の健全度を示すものと考えます。

【参加行事等紹介】

1 練習艦隊横須賀入港歓迎

5月8日(木)、練習艦隊(司令官 湯浅秀樹海将補)が、近海練習航海実習の最終寄港地である横須賀に入港しました。

本年度の練習艦隊は練習艦「かしま」(艦長 森田哲哉1等海佐)、「せとゆき」(艦長 東良子2等海佐)及び護衛艦「あさぎり」(艦長 川内健治2等海佐)の3隻で編成され、横須賀音楽隊が歓迎の曲を奏でる中(第64期一般幹部候補生課程修了者

約170名を含む約840名が乗艦)逸見岸壁に接岸しました。

岸壁では武居横須賀地方総監をはじめ各級指揮官等多くの隊員、吉田雄人横須賀市長、椎名毅衆議院議員をはじめとした多くの来賓、各支援団体が出迎えました。



入港歓迎行事は、吉田市長の歓迎挨拶、椎名衆議院議員の祝辞、祝電披露、花束贈呈及び司令官の挨拶等、短い時間ではありましたが心のこもった内容でした。

横須賀水交會も本多会長代理をはじめ多数の会員が自衛艦旗小旗・水

交會旗を掲げ、横須賀入港を歓迎するとともに乗員の激励を行いました。



同日夕刻、同市内において横須賀市長、横須賀市議会、横須賀防衛協会、横須賀商工会議所及び横須賀地方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮行会が行われ部隊からも各級指揮官等が多数参加しました。横須賀水交會からも土井会長他多数の会員が参加しました。

壮行会は、主催者代表の吉田横須賀市長の練習艦隊・実習幹部に対する温かい激励から始まり、司令官及び宇野暁央実習幹部(神奈川県出身)に対する花束贈呈、司令官のお礼の挨拶及び笹生和彦実習幹部(横須賀市出身)の挨拶、市長から訪問地に対する書簡の委託と続いた後、板橋横須賀市議会議長の発声により高らかに乾杯が行われました。

和やかな雰囲気の中、多くの支援者との歓談を通じて実習幹部は自分たちに対する期待の大きさを感じ、それに応えようとする意気込みが感じられました。

中締めは、平松商工会議所会頭の



音頭による万歳三唱及びその答礼として森田かしま艦長の万歳三唱、そして最後に小山満之助横須賀防衛協会会長の音頭による乾杯で締めくくられました。参会者一同名残尽きない中、実習幹部の前途を祝して万雷の拍手をもって見送りました。

壮行会終了後、場所を移して司令官、各艦長、先任伍長等を招待して横須賀水交會主催の歓迎夕食会が行われました。武居横総監も参加された夕食会は、土井会長以下多数の会員が参加して、袴を脱いだ和やかな雰囲気の中での懇談で近海練習航海の労をねぎらいました。

(宮崎道夫幹事 記)

### 2 馬門山海軍墓地墓前祭参列

5月10日(土)、第59回目を迎えた馬門山海軍墓地墓前祭は、新緑が薫る馬門山海軍墓地(旧横須賀海軍墓地・横須賀市根岸町一丁目五番地)において厳粛に執り行われました。当日は、ご遺族の関係者を始め、吉田雄人横須賀市長、板橋衛横須賀市議会議長、牧島功神奈川県議會議員、木下憲司横須賀市議會議員等、海上自衛隊からは武居智久横須賀地

方総監、堂下哲郎自衛艦隊司令部幕僚長、糟井裕之護衛艦隊司令部幕僚長、井上司潜水艦隊司令部幕僚長、下園輝昭第二術科学校長、寺山勝幸横須賀教育隊司令、三船忍横須賀警備隊司令等、及び在日米海軍司令部からはマイケル・コールマン副司令官兼参謀長、並びに主催5団体(大津地区社会福祉協議会(主幹事)、大津地区連合町内会、横須賀水交會、隊友会横須賀支部、大津観光協会)の長・会員並びに一般参列者等、約320名が参列して、祖国のために散華された英霊に対して哀悼の意を表しました。



墓前祭は、参列者による「拝礼」、「国歌斉唱」に続き、西原徹大津地区連合町内会長及び横須賀市長による「追悼のことば」、海自儀仗隊による「拝礼」、参列者による「献花」、海自儀仗隊による「弔銃発射」、最後に参列者が「黙とう」を捧げるという次第で行われました。

特に、海自儀仗隊等による「拝礼」と「弔銃発射」は節度と威厳に溢れたものであり、本墓前祭に欠くことのできない儀式の一つとなっており、また、昨年に引き続き湘南学院高等学校の生徒が参加し、受付や献花を支援してくれました。

横須賀水交會からは土井克彦会長以下約40名の会員が参加し、例年どおり有志が水交會の腕章を着用して受付・誘導等の支援を行い、円滑な墓前祭の進行に勤めました。

馬門山海軍墓地は、明治15年(1882年)に海軍省が戦死、若しくは殉職した海軍軍人の埋葬地として開設し、以後、横須賀鎮守府が終戦まで管理運営を担当していました。昭和24年(1949年)、横須賀市は横須賀地方復員局から維持管理を引き継ぎ、以後、一般墓地を造成し



つつ、現在に至っています。当墓地には軍艦「河内」、「筑波」等の殉職者、上海事変戦死者等、海軍軍人の英霊1592柱が殉職者之碑・個人墓等に祀られています。しかしながら、個人墓の古いものは設置されてから約130年が経過し、損傷が激しく、一部には倒壊している個人墓もあることから、公益財団

法人水交会（横須賀水交会が実務を担当）が、昨年約半年をかけて修復工事（修復対象墓石約235基については可能な限り元の状態への修復）を行いました。同時に、表通りから墓地に至る経路についても本年度末を目途に修理工事が実施されています。墓前祭終了後、参加者はこの修復状況等を確認しつつ帰路についていました。

終わりに、墓前祭を執り行うに際し、儀仗隊の派出・会場準備撤収等において海自横須賀地方隊から多大な支援を得ていること及び墓前祭に先立ち4月26日（土）に横須賀上級海曹会の隊員等が墓地を事前清掃したことに對して、主催各団体から深甚なる感謝の意が表されました。

（佐々木俊也幹事 記）

### 3 「海軍の碑」記念行事

5月27日（火）正午にヴェルニー公園（JR横須賀駅前）内に建立されている「海軍の碑」の前において、記念行事を行った。

「海軍の碑」は、近代海軍創設から海軍成長の歴史とともに発展した横須賀市のシンボルとして平成7年

11月17日、全国の海軍関係者及び有志の皆様からの浄財により建立された。また、本記念行事は平成13年までは横須賀海友会が、横須賀海友会と横須賀水交会が合同した平成14年以降は横須賀水交会が毎年海軍記念日（明治38年（1905年）5月27日の日本海海戦を記念して制定されたが、昭和20年（1945年）廃止）に行っている。



当日は前日からの雨も止み、晴天の中で横須賀水交會会員有志が碑周辺の清掃を行った後、会員及び海軍の先輩等50余名の参加者を得て、整齊かつ厳粛に行事は進行した。



ラッパ「君が代」の伴奏による国旗及び軍艦旗の掲揚に始まり、海軍戦没者の英霊に對する一分間の黙とう、「海軍の碑」建立の趣旨説明、土井克彦横須賀水交會会長の挨拶に引き続いて、松崎充宏元海将（第24代呉地方総監、防衛大学校2期）から「先の大戦における日米の装備技術力について」と題して、レクチャー、

V T信管を具体的事例と引用し、技術力・軍事思想の違い等に関する大変貴重な講話を頂いた。

その後、鎮魂の譜（「同期の桜」「巡検ラッパ」「海ゆかば」の3曲）を傾聴し、国旗及び軍艦旗の降下をもって無事に終えた。

短時間であったが、海軍の業績を偲ぶと共に、海軍の英霊の追悼と永遠の平和希求に相応しい記念行事となった。

行事終了後、参加者は、日本海海戦109周年記念式典に参加するため記念艦「三笠」へ向った。

（佐々木俊也幹事 記）

▼13面Ⅱ「日本海海戦109周年記念式典」

### 4 平成26年度定期総会を開催

6月6日（金）横須賀水交會の平成26年度定期総会、講演会及び懇親会が、よこすか平安閣において盛大に開催されました。

総会は道家幹事の司会により、物語者に黙とうを捧げた後、会則の規定により土井会長を議長として3つの議案について審議が行われ、いずれも賛成多数で了承されました。



その概要は次のとおりです。

① 25年度の事業及び決算報告

89名の新入会員があり、会員数は24年度末と比較し、44名増の827名である。また、各事業とも計画どおり順調に実施された。

② 役員を選任

新任、変更あわせて16名の幹事が選任され、引き続き土井会長の下で一丸となって運営していく体制が整った。

③ 26年度事業計画及び予算

本部業務計画に基づく6つの活動方針ごとに事業計画を策定し、ほぼ例年どおりの事業規模と予算が計上された。

ひととおりこれらの審議が終了したところで、「事態急変時の隊員留守家族の支援」に関する検討状況に関して安齋幹事から説明が実施されました。

これは、大規模災害時の災害派遣時等に生起する隊員の緊急登庁に際して、実家などに預けることのできない隊員の子供達の面倒を誰が何処でみるかという問題に関し、横須賀水交會として何らかの支援ができないかという内容のものです。

活発な意見交換があった後、今後とも継続して検討を進めていくことが確認されました。

次に本会会員で平成25年度及び平成26年度に叙勲受章された方々の紹介があり、参加者全員で拍手をもって祝福しました。

最後に、新旧役員・新入会員の紹介が行われ、本年度もしっかりとした会務運営に当たることを決議し総会を終了しました。

休憩の後、「海上自衛隊の現状」と題して、横須賀地方総監武居海将による講演が行われました。

内容は、「海上自衛隊のトピック」、「平成26年度年間行事予定」、「家族

支援について」及び「周辺軍事情勢のトピック」の4項目でした。



「海上自衛隊のトピック」としては「26年度遠洋実習航海」、「RIMPAC2014」、「Pacific Partnerships2014」及び「田浦地区の通門要領について」の概要について話されました。

「平成26年度年間行事予定」については昨年度に実施された各行事の写真と内容を示しながら、どのような趣旨の行事がどのように執り行われるのかということを分かり易く説明されました。

「家族支援について」は、海上自衛隊として、また特に横須賀地方隊として現在すでに取り組んでいる事

項、これから取り組んでいく事項及び検討状況について詳しく説明されるかを伺い知ることができました。

最後の項目の「周辺軍事情勢のトピック」については、ロシア航空機の我が国上空における飛行状況や、東シナ海における中国公船の領海侵入状況等について取り上げられ、それらの事案と国際情勢の因果関係に触れるとともに、これらに適切に対応しなければならぬことについて述べられました。

会員一同、この講演を通じて、改めて海上自衛隊を取り巻く現状と、それに伴う任務の重要性について再認識できた貴重な時間でした。

講演終了後、会場を移し、小泉内閣府政務官、吉田横須賀市長、県議・市議、防衛関係諸団体代表及び講演に引き続き参加された武居横須賀地方総監や鮎田自衛艦隊司令官等防衛省・自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が行われました。

土井会長からの横須賀水交會の3つの活動指針（「会勢拡大」、「留守家族支援」、「馬門山海軍墓地保存会」）

についての紹介をメインにした挨拶に続いて、来賓を代表して吉田市長から水交會の活動に対する深いご理解が感じられる祝辞を頂きました。



また、鮎田自衛艦隊司令官からは東シナ海における中国軍機の異常接近やジブチ市内での自爆テロの事案等、自衛隊の活動地域における緊迫した情勢の紹介などを含む祝辞があり、会員一同、現役の隊員達が厳しい環境下で日々健闘されていることに改めて思いを馳せることとなりました。

引き続き来賓紹介、祝電披露へと進み、武居横須賀地方総監の音頭で高らかに乾杯し、懇談に入りましたが、途中で会場に駆けつけられた小泉政

務官の力強くかつ機知にとんだ挨拶に会場は大いに盛り上がりました。



会場のあちこちに再会と交流の輪が広がりましたが、横地隊先任伍長関曹長の中締め乾杯をもって、名残惜しくも散会しました。

(宮崎道夫幹事 記)

5 第28回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

6月8日(月)、第28回横須賀水交

会主催ゴルフコンペを千葉房総半島のエンゼルカントリークラブにて開催しました。

当日は、例年より幾分早かった梅雨入りのため、スタートから曇りベース、途中一時的な雨にも降られましたが、プレーには全く影響ありませんでした。

参加者は土井克彦会長以下54名、14組と前回より11名多い参加数で、民間から男性2名、女性2名、JANAF A個人賛助会員4名等の参加も頂き、賑やかに楽しくプレーをすることができました。

競技は従来どおり新ペリア方式で実施しました。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式で出てきたハンディキャップからそれぞれ30、20、10%を減点することになっています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。

今回は、大月良一氏が、グロス93、ハンディキャップ20.4、ネット72.6で優勝、2位には幹事の迫幸一郎氏(78、4.8、73.2)が、そして3位は近藤義美氏(77、3.6、73.4)がそれぞれ受賞と

いう成績でした。

今回優勝の大月氏は第13回大会以来の2回目の優勝であり、見事に副賞のキャディバックを獲得し大喜びでした。大月氏からは「良いパートナーに恵まれ、肩の力を抜き自然体でプレーをさせていただきました。



ありがとうございます。とのコメントがありました。



また、ベストグロス賞には、ジュニアの部（65歳未満）では2位の迫氏がグロス78で、ベストグロス賞ウィマンには山田裕千会員のご令室、山田みどり夫人がグロス96で、シニアの部（65歳以上）では過去4回優勝の近藤義美氏がグロス77で前回に引き続き受賞、加えてエイジシュート（近藤氏78才）も前々回から連続となる偉業を達成されました。

水交會主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交會会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければ幸いです。

ついでです。

またこの中から水交會に入会していただければ、このコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしくお願ひします。

（迫幸一郎幹事 記）

### 6 第6護衛隊「たかなみ」、「おおなみ」ソマリア沖・アデン湾へ 第19次海賊対処水上部隊 出港見送り

海賊対処法に基づき、ソマリア沖・アデン湾において、海賊対処に任ずる水上部隊が派遣されているが、この度、第6護衛隊司令 大川努1佐を指揮官（司令部約30名）に護衛艦「たかなみ」（艦長 上田裕司2佐、乗員約170名）及び「おおなみ」（艦長 加世田幸行2佐、乗員約170名）の2隻が派遣されることとなった。

7月15日（火）、両艦は横須賀を出港し、第18次隊の「いなづま」及び「うみぎり」と交代する予定で現地へ向った。横須賀からは2年ぶり8

回目の派遣である。

武居横須賀地方総監執行の出港行事は、木原防衛大臣政務官訓示、鮎田自衛艦隊司令官訓示、花束贈呈、第6護衛隊司令あいさつ等盛大に行された。



横須賀市長、船主協会、米海軍、海上保安庁関係者はじめ各級指揮官、隊員、家族、横須賀水交會などの防衛団体、地元関係者など多数の見送りのなか、自衛艦旗小旗、水交會旗、各団体の激励幕などが掲げられ、出港時、超長一声が響き、帽振れにあわせた旗振りと声援で壮途を祝すなど、心のこもった行事であった。



現地では、船団を組む商船を直接護衛する従来からの方策と、一定の海域を守るゾーンデフェンスが実施されているが、7月4日までの海賊対処護衛実績は計578回、延3371隻に上ると公表されている。

派遣された部隊は、関係各国から高く評価され、護衛された船舶からは、格別の感謝をされていることが伝えられ、立派な成果を挙げている。はるか遠いソマリア沖で、厳しい環境の中、不自由な海外での長期間の活動には感謝の念が深まる。海洋使用の自由、海上交通の安全のため、ひいては国益のため長期間にわたる

任務行動をする部隊に対し、深甚の敬意を払うものである。

任務達成と武運長久を祈る。

(本多一雄事務局長 記)

### 7 平成26年度横須賀夏期防衛講座

7月26日(土)横須賀地区防衛諸団体共催の横須賀夏期防衛講座が記念艦「三笠」において開催された。本講座は横須賀水交会と隊友会横須賀支部が隔年で主幹事を担当しているもので、本年度は隊友会横須賀支部が主幹事を務めました。



当日は今年の夏を象徴するような猛暑でありましたが、「三笠」講堂には、現役自衛官を含む来賓及び熱心な各団体会員約200名の聴講者が

集りました。今回の講師は、在日米海軍司令部参謀長兼副司令官のデニス・ミケスカ米海軍大佐です。

第1部「講演」は、小山横須賀防衛協会会長の挨拶に始まり、小田倉隊友会横須賀支部長による講師紹介に引き続き、ミケスカ米海軍大佐が大きな拍手に迎えられて登壇、「日本における米海軍と日米安保の現状」という演目で講演が始まりました。

講演は、米第7艦隊や在日米海軍の任務及び極東や日本における配備状況等についてといった全般的な説明から始まり、続いて先の東日本大震災時の「トモダチ作戦」時の共同作戦の例等を示しながら、民間にはない大量輸送能力を保持しているといった米海軍の能力の話や米海軍と海上自衛隊の緊密な連携について話されました。

特に印象に残ったのは「前方展開」の意義について話された時の「前方展開の意義は、アジア及び日本周辺で事態が生じた際に即応できる体制を整えておくことにありますが、なによりもこのようにして日頃から日本の皆さんと身近に接して友好関係を深めることが第一であると考え

ています。」との一言でありました。まさにこの一言に永年の間に築き上げられてきた米海軍と海上自衛隊の深い絆が集約されているように感じられました。



第2部の納涼懇親会は、場所を「神奈川県立大学学生食堂」に移して実施されました。小泉復興大臣政務官の軽妙かつ力強い来賓祝辞の後、祝電披露、来賓紹介と続き、小田倉隊友会横須賀支部長の乾杯の音頭で始まった懇親会では、そこかしこのテーブルで参会者同士の防衛談義に花が咲き、旧交を温めあう姿が散見され、まさに横須賀防衛諸団体の貴重

な交流の場となりました。

このように和気藹々ながら熱く意見を交換する内に時間は瞬く間に過ぎて、第2部もあつという間に幕となり、平成26年度横須賀夏期防衛講座は所期の目的を十分に達成して終了しました。

(宮崎道夫幹事 記)

### 8 教育隊修業式における横須賀水交会激励賞の授与

8月22日(金)横須賀教育隊第361期練習員課程及び第56期練習員(女性)課程の修業式、8月29日(金)第7期一般海曹候補生課程の修業式において、成績優秀者4名(男性2名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を土井会長から贈呈しました。

本表彰は、昨年度(平成25年度)は、横須賀水交会独自の事業として実施されましたが、今年度からは、水交会全体の事業として全教育隊で実施されることとされたものです。

8月22日の修業式においては、第361期練習員課程368名及び第56期練習員(女性)課程70名、29日の修業式においては、第7期一般海曹候補生課程372名(男性…33

8名、女性・38名)から選考された学生に対し贈呈されました。



当日は、小泉進次郎衆議院議員を含む部内外の来賓や全国各地から来られたご家族等(22日約800名、29日約700名)参列のもと、土井会長からの贈呈が整齊と実施され、横須賀水交會の知名度向上に大きく貢献したものと思います。今回、以下の方々が表彰されました。

第361期練習員課程

高野聖斗二士

第56期練習員(女性)課程

姫野日和二士

第7期一般海曹候補生課程

筑田慎大二士

坪野恵津子二士

なお、今年度は、初任海曹課程(12

月末・3月中旬修業予定)及び練習員課程(2月修業予定)の計3名に対する表彰も予定されております。

今回、表彰された皆様が、部隊において更なる研鑽を積まれ、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交會一同祈念しております。

(清水利広幹事 記)

【トピックス】

1 日本海海戦109周年記念式典

5月27日(火)、昨夜の荒天とは打って変わった晴天の下、記念艦「三笠」において、日本海海戦109周年記念式典が挙行されました。

式典は、中塚三笠保存会事務局長の司会により開始され、国歌斉唱、戦没者に対する黙とう、増田三笠保存会会長による式辞、若宮防衛大臣政務官、武居横須賀地方総監、在日米海軍司令官代理幕僚長及び横須賀市長代理沼田副市长による祝辞、主要来賓紹介、小泉復興大臣政務官等の祝電披露と粛々と行われました。その後、中部甲板において、海自横須賀音楽隊による演奏、祝宴と続き、多数の参加者は十分に満足の様子でした。横須賀水交會からも多数

の会員が、「海軍の碑」記念行事の後に参加しました。



2 靖国神社等月例参拝

水交會の月例参拝は、旧海軍及び海自OBを主体に行われていますが、今回、旧海軍出身者は、兵学校73期の中島又雄氏以下、甲飛会、予科練の方々10名で、海自OBは、幹候9期の高岡正直氏以下クラス代表23名有志会員3名及び水交會本部3名の合計39名でした。更に、横須賀水交會からの参加者に加え、57名の大人数での参拝となりました。

7月17日(木)は、入梅中のおかげで酷暑は避けられました。靖国神社では、7月13日から16日の間「みたまつり」が行われており、参道の提灯等の後片付けの最中でした。

参拝前に参加者の紹介があり、それに引き続き徳川宮司からのお話では、「多くの参拝者で賑わったが、一部の者は参拝せずに参道の出店で騒いでばかりいる不埒ものがいた。」など、今後の課題となる状況もあったとのことでした。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑では、各自一輪ずつ菊の花を手向けた後、事務所において、「遺骨収集の現状は、240万柱の内120万柱しか戻っておらず、なかなか終わりが見えない事業である」旨の報告がありました。

ただ、今年初めて練習艦隊がソロモン諸島のガダルカナル島から遺骨を運んで帰るといううれしいお話がありました。

防衛省慰霊碑では、参加者が整列して、献花、黙とうを行い、殉職者を慰霊いたしました。

その後、水交會本部に移動し、直会を行いました。直会では本多副会長の「参拝は大切であり、今後とも横

須賀水交會としても続けなければならぬ。」との挨拶で始まり、参加者の日常や出来事の紹介等で盛り上がり、中尾副会長の「国防に殉じた英霊を疎かにする国は亡びる、この参拝は大変意義深いものである。」との締めめの挨拶で次回の再会を期して散会しました。



今回は、このように多数の参加者を得て、盛会裏に終えることができました。また、横須賀から参加された方の中に、入会を考えている一般の方が2名おられました。皆様の周りでもこのような希望者がおられましたら、お誘いの上ご参加ください

いますようお願いいたします。次回は来年2月に予定しております。

### 3 平成26年度第1回幹事会

9月13日(土) 横須賀地方総監部の会議室において第1回幹事会が行われました。幹事会は、顧問以下50余名が参加しました。



内容は、実施行事(馬門山海軍墓地墓前祭、海軍の碑記念行事、横須賀水交會ゴルフコンペ)、平成26年度定期総会、横須賀夏期防衛講座、教育隊の激励賞及び靖國神社等の参拝の成果報告、以後の行事(部隊研修、教育隊の激励賞)の紹介、隊員留守

家族支援に関する検討状況等、活発な論議が行われました。



幹事会終了の後、場所を移して懇親会が実施されました。懇親会は、野口常務幹事の司会で始まり、会長挨拶の後、来賓として中西横監幕僚長の挨拶をいただきました。引き続き松崎顧問の発声により杯を上げ、以後いつもの如く大いに盛り上がりました。

また、当日は、横須賀市内各店舗で「戦艦陸奥の主砲里帰り」事業支援の一環として実施された「軍艦メシ」行事の紹介がありました。

### 4 潜水艦殉国者慰霊祭

10月20日(日) 淡く色付いた落ち葉が秋の深まりを感じさせる東郷神社の境内において「潜水艦殉国者慰霊祭」が執り行われ、横須賀水交會からも多くの会員が参列しました。

本慰霊祭は、先の大戦において散華された英霊、任務遂行中に殉職された潜水艦乗組員や技術者等潜水艦関係者の鎮魂を目的として、昭和33年から毎年挙行されており、今年もご遺族や帝国海軍潜水艦乗りの皆様をはじめ、笹尾第2潜水隊群司令部首席幕僚、斎藤水交會理事長、明野東郷会理事長及び海自潜水艦OB等潜水艦関係者約70名の方々が参列されました。

東郷神社宮司によって厳かに神事が執り行われる中、久保彰元潜水艦隊司令官が「碑文」を読み上げられると、祖国の安寧と繁栄を願い職に殉じられた方々の思いが時代を超えて深く参会者の心を打ち、身の引き締まる思いでした。また、今回は豪州派遣中の護衛艦「はたかぜ」が、昭和17年にドーウィン港外で沈没した「伊124潜」の洋上慰霊祭を行った様子なども紹介され思いを新た

にされる方も多かったです。慰霊祭終了後、参加者はそれぞれの思いを胸に境内を後にされましたが、100年を超える我が国潜水艦部隊の歴史を伝え、潜水艦乗りの心を連綿と繋ぐこの慰霊祭が末永く続いていくことを念じております。



潜水艦殉国者慰霊碑は東郷神社参道の南側（現在工事中の西側部分）に建立されており、入り口には少し変わった形の狛犬が設置されています。これまで気付かれなかった方も多いと思いますが、水交会への行き帰りや東郷神社参拝の際には、是非

潜水艦を象った碑と心打つ碑文をご覧ください。

なお、平成27年は潜水艦部隊創設100周年の節目の年になります。潜水艦殉国者慰霊祭は、例年10月20日に実施されておりましたが、東郷神社とも相談の上、この節目の年から、日露戦争凱旋観艦式において第一潜水艦隊が水中運動等を天覧に供した10月23日に挙行されることになりました。来年の慰霊祭終了後には水交会において直会も計画されており

#### 【お知らせ】

#### 戦艦「陸奥」主砲の横須賀

#### 里帰りの運動にご支援を！

帝国海軍の象徴的な、戦艦「陸奥」の主砲（全長約19m、重さ約100トン）は、船の科学館（東京お台場）の前に展示されています。2020年東京オリンピックの開催が決定され、お台場周辺は再開発、施設の移転等が計画され、陸奥の主砲も移転が求められています。

戦艦陸奥は大正10年、横須賀海軍工廠で建造され、その後昭和11年同工廠で大改修が行われその際、新た

に搭載されたのが本主砲であります。陸奥は戦中昭和18年に原因不明の爆発により、瀬戸内海柱島沖で沈没し、乗員一千二百二十一名が艦と運命を共にしました。昭和46年陸奥引き上げが行われ、その主砲1門が船の科学館に展示され現在に至っています。

この主砲を是非陸奥誕生の地である横須賀に里帰りさせ、先人の遺構を後世の若者に継承させて行くこと、また横須賀にある日本の近代化をけん引してきた遺産、記念物等として現在、将来の海洋開発、安全保障に取り組んでいる施設、組織もあり、これらを融合し、海の風を肌で感じ、海洋立国日本を若者に啓発できることを願い、この事業がその1里塚になればとの考えで、齋藤元統合幕僚長はじめ、小泉衆議院議員、古谷衆議院議員、吉田横須賀市長、板橋横須賀市議会議長、平松横須賀商工会議所会頭が発起人となり、「陸奥主砲の横須賀へ里帰りを支援する会（陸奥の会）」を立ち上げられました。横須賀水交会として、本事業に対し協力支援することとし、この5月から始まった署名運動に協力しました。10月中旬の時点で、合計3万3千人

を超える署名を頂いております。

10月28日、これらの運動に対し、船の科学館から、正式に横須賀へ譲渡が承認されました。これを機会に、陸奥の会として、移転・設置のための資金を募金することとされましたので、募金活動に会員各位のご協力、ご支援をお願いします。

次の金融機関へ振込でお願いします。

「かながわ信用金庫本店営業部」

支店番号：001

口座番号：普通 1636154

口座名義：陸奥の会代表 齋藤隆

「湘南信用金庫本店営業部」

支店番号：001

口座番号：普通 1461156

口座名義：陸奥の会代表 齋藤隆



前頁の写真は、船の科学館からお借りした戦艦「陸奥」の模型(百分の一モデル)で、現在横須賀市役所に展示されています。

叙勲受章者

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

春の叙勲

- 瑞宝中綬章 砂川 正俊
- 〃 明野 充功
- 瑞宝小綬章 長崎 嘉徳
- 〃 矢島 寛三

秋の叙勲

- 瑞宝小綬章 大野 秀臣
- 〃 大野 稔雄

訃報

今年4月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 吉富 明治(幹候8) 5月3日
- 小山 力(幹候17) 6月28日
- (本多一雄事務局長記)

新(編)入会員

(26年2月〜26年9月)

次の方々が横須賀水交會に新たに

入会(編入)されました。(敬称略)

- 吉井徹(有志) 鈴木暎康(有志) 湯本博一(有志) 湯本好英(有志) 和田麻衣子(有志) 檜森晃治(生徒21) 石橋昭仁(有志) 久保田宣彦(有志) 稲富孝徳(横公募曹54) 島畑忠隆(横教193) 松下泰士(幹候29) 卜部礼二郎(有志) 甲斐文雄(部内) 小林良輝(特年兵03) 井本慎吾(有志) 大川郁生(部内86) 土淵優二(有志) 小椋満典(有志) 稲垣雅子(有志) 益田麗子(有志) 乳井三治(幹候27) 瀧口明美(有志) 鈴木隆裕(有志) 井上雅仁(幹候32) 田畑公基(有志) 久保泰(有志) 吉岡俊一(幹候32) 寺崎隆文(生徒21) 西田宏(有志) 岡田晋(有志) 津島勝二(幹候18) 上村巍(遺族) 高橋薫(有志) 三浦昌信(幹候33) 朝永徹一(有志) 保泉哲也(幹候34) 島村大樹(有志) 西眞次(遺族) 福田正彦(幹候37) 遠藤剛(有志) 林信彦(遺族) 佐藤ハマ(遺族) 伊藤宏(有志) 土屋正明(幹候31) 西並眞吾(有志) 西村哲哉(幹候13) 三木伸介(幹候31) 安達賢一郎(有志) 児玉高幸(有志) 坂本義光(有志) 平躰友行(有志) (高橋陽一幹事記)

【編集後記】

「トピックス」欄で、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で伺った「今年は初めて練習艦隊がソロモン諸島のガダルカナル島から遺骨を運んで帰る。」という墓苑奉仕会殿の報告を紹介しましたが、その練習艦隊は戦没者遺骨137柱を載せて10月24日、東京・晴海ふ頭に無事帰投しました。その場で、引き渡し式が行われ、海上自衛隊から厚労省に遺骨が手渡しされた後、参列者が黙とうし、献花がなされたとのことです。

墓苑奉仕会殿が仰るところの「なかなか終わりが見えない事業」に、このような形で海上自衛隊が直接貢献するということは海自OBのひとつりとして誇らしいことと思います。

「お知らせ」欄では「陸奥主砲横須賀里帰り」事業を紹介させていただきました。皆様の署名運動の成果で、横須賀への譲渡が正式に承認された今、遅滞なく移転・設置するためには必要な資金の確保が重要な課題となります。募金活動への皆様の皆様の協力をお願ひ申し上げます。

(編集担当 宮崎)

当社の技師として長年の知識と技術を生かしませんか?

自衛隊OB募集中!



エンジン等の整備 年齢不問  
総合エンジニアリング

(株)大同船舶工業

〒238-0012 横須賀市安浦町1-8-1  
TEL : 046-874-6901 担当: 小島(海自OB)  
FAX : 046-874-6902  
URL : http://daidou-senpaku.jimdo.com/

LEDよこすか

節電対策はお済ですか?

LEDで上手に節電!

ビル・マンション・工場・店舗・倉庫等  
何でもご相談ください。

お客様のご希望のプランにお応え  
いたします。

価格・品質・対応

URL : http://www.daidou-led.com/